委託事業実施内容報告書
平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（B）】

受託団体名　特定非営利活動法人シェイクハンズ

1.　事業名称

愛知県尾張北部におけるネットワーキングによる地域日本語教育の推進
～生活者としての外国人支援ネットワーク～

2. 事業の目的

外国人散在地区と位置づけされる愛知県尾張北部の日本語教育に携わる団体が日常的なネットワークを結び、指導者要請講座や、カリキュラムに基づく日本語教室等を開催し、日本語教育の拡充と真の多文化共生の地域づくりを進める。

3.　事業内容の概要

①尾張地区で日本語教室や外国人支援に携わる複数機関との連絡協議会を設置する。
②「生活者としての日本語教室」を開催し、外国人住民が地域で暮らしやすい環境をつくる。
③日本語支援者養成講座を開催し「カリキュラム案」の理念を広め、「生活者としての外国人」の中から地域密着型の教室運営に携われる日本語支援者を養成する。

4.　運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年6月19日 18:30～21:30	3時間	寺子屋シェイクハンズ	栗木梨江、土井佳彦、米勢治子、西部昭夫、後藤好美、大島ユミ、早瀬裕子、川島紀之、松本里美 大橋充人、	1. 自己紹介2. 事業の主旨・目的説明、3. 事業内容の説明	1. 事業の主旨に沿った運営方法と、取組1のネットワーク会議の重要性について。 とくに取組3養成講座開催における各機関の募集の協力体制について。2. 取組2の日本語教室についての会場や形式について。 3. 取組3の養成講座に内容についての方向性等4. 助成金額決定の減額における変更について。
2	平成25年12月18日 18:30～21:00	2時間30分	地域の寺子屋	土井佳彦、米勢治子、西部昭夫、後藤好美、大島ユミ、早瀬裕子、川島紀之、松本里美、大橋充人、	1. ネットワーク会議の報告について2. 取組2の「生活者として必要な日本語教室」の進捗状況について2.「子育てを応援する日本語教室」の準備について	1. ネットワーク会議を重ねる度に、それぞれの機関の特長や課題が共有できることへの実感が話し合われた。2. 取組2の日本語教室で、出身国別に固まってしまう傾向があり、その対策を。3. 取組2「子育てを応援する日本語教室」のコーディネーターを松本氏が代行する件。
3	平成26年2月26日 18:30～21:00	2時間30分	地域の寺子屋	土井佳彦、米勢治子、西部昭夫、後藤好美、大島ユミ、早瀬裕子、川島紀之、松本里美、大橋充人、大橋充人	1. 取組2の進捗状況2. 事業全体の反省3. 次年度のネットワーク増強のための事業4. 次年度文化庁事業について	1. 現時点の事業全体の反省2. 尾張北部地域、特に散在地域におけるネットワーキングによる外国人支援の重要性。

5.　取組についての報告

○取組1：尾張北部日本語教育機関のネットワークづくり

（1）　体制整備に向けた取組の目標

尾張北部の各日本語教室が「生活者として必要な日本語教育」を中心にし、外国人実情や支援の取組を共有でき、多文化共生地域づくりに役立てる。

（2）　取組内容
尾張北部の日本語教育・外国人支援に携わる機関、約15団体が定期的に集まり、各機関での取組みや外国人実情など、情報共有する。また外国人キーパーソン等も交え、各取組も紹介、地域における日本語教育・教室の向上を図る。

（3）　対象者
尾張北部地域で、日本語教育に携わる組織や個人、地域の外国人キーパーソン

（4）　参加者の総数　16人
（出身・国籍別内訳　ブラジル人２人　ペルー人２人　中国人１人　日本人１１人　）

（5）　開催時間数（回数）　20時間　（全　８　回）
（6）　取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年6月26日 18:30～21:00	2時間30分	寺子屋シェイクハンズ	15人	ブラジル2、ペルー1、中国1、日本11人	ネットワーク会議の主旨説明と運営方法	本取組の主旨説明と自己紹介、今後の日程についての協議。各団体の内容を順に発表することが決定。日程とグルーピング。	進行役として 松本里美	事務局として、シェイクハンズ　齋藤知子
2	平成25年7月29日 18:30～21:00	2時間30分	寺子屋シェイクハンズ	15人	ブラジル1、ペルー1、中国1、日本12人	グループによる事業内容の紹介、第1回目。	①犬山市民活動支援センターの会②にわとりの会③劉小紅（中国人の会）④多文化共生リソースセンター東海支援が発表。JIAM研修報告。夏のイベント紹介。	なし	事務局として、シェイクハンズ　齋藤知子
3	平成25年8月26日 18:30～21:00	2時間30分	寺子屋シェイクハンズ	14人	ブラジル1、ペルー1、中国1、日本11人、	グループによる事業内容の紹介、第2回目。	①東海日本語ネットワーク②犬山日本語教室③サラダボウル④シェイクハンズ	なし	事務局として、シェイクハンズ　齋藤知子
4	平成25年9月24日 18:30～21:00	2時間30分	寺子屋シェイクハンズ	13人	ブラジル1、ペルー1、中国1、日本10人	グループによる事業の内容の紹介、第3回目。日本語支援者養成講座について。	①小牧市国際交流協会②扶桑町多文化共生センター③羽黒小学校語学指導員④犬山市多文化共生推進員。日本語支援者養成講座の募集についてと、各団体に、協力要請をした。	なし	事務局として、シェイクハンズ　齋藤知子
5	平成25年11月25日 18:00～21:00	2時間30分	寺子屋シェイクハンズ	12人	ブラジル1、ペルー1、中国1、日本9人	グループによる事業内容紹介と、次回からに向けて。第1回日本語支援者養成講座について	江南市国際交流協会が発表。次回からの議題について。情報交換。日本語支援者養成講座1回目の報告。	なし	事務局として、シェイクハンズ　齋藤知子
6	平成25年12月12日 18:00～21:00	2時間30分	寺子屋シェイクハンズ	14人	ブラジル1、ペルー1、中国1、日本11人	外国人のコミュニティについて。各団体の情報	犬山市の外国人支援員と、ペルー人のキーパーソから、市内近郊の外国人の現状やお母さん達の状況をきいた。	なし	事務局として、シェイクハンズ　齋藤知子
7	平成26年1月27日 18:00～21:00	2時間30分	寺子屋シェイクハンズ	15人	ブラジル1、ペルー1、中国1、日本12人、	日本語教室の進捗と、次年度に向けての協働	各教室参加の状況と、次年度からの更なるネットワーク拡充の相談と提案。	なし	事務局として、シェイクハンズ　齋藤知子
8	平成26年3月17日 18:00～21:00	2時間30分	寺子屋シェイクハンズ	15人	ブラジル1、ペルー1、中国1、日本12人、	ネットワーク会議の反省と、来年度のネットワーク事業に関して	次年度のネットワーク会議の継続決定をし、参加依頼するメンバーの候補。また、ゲストスピーカーなどの情報共有。各地域のニースや、外国人のライフステージに合わせた課題の提案にむけて。	なし	事務局として、シェイクハンズ　齋藤知子

※チラシは最終項に添付

（7）　参加者の募集方法
尾張北部で活動している各教室または、団体に直接参加依頼。外国人組織、キーバーソンについては、団各体から
の紹介。

（8）　特徴的な活動風景（2～3回分）

第7回ネットワーク会議

第2回ネットワーク会議

ネットワークの需要性について学ぶ

・回を重ねる毎に情報共有・ネットワーキングの重要さの理解が進み、次年度もNW会議の続行が望まれ、賛成された。その方法についても、行政の参加、人材の拡充などが話し合われた。

（9）　取組の目標の達成状況・成果

・全参加団体が、それぞれの活動について詳細に発表をし、情報の共有を図ることができ、全8回の開催のうち
毎回ほぼ全員が参加した。（参加率94%）

・次年度も、予算措置に拘わらず、ネットワーク会議開催の意思決定ができ、継続になった。

（10）　改善点について

・行政や学校の参加が少なかった

・公的立場の人の参加が少なかったので、次年度は、早めの参加依頼をする。

・外国人住民の意見ももっと聞けるよう、さまざまな立場でゲストスピーカーを依頼する。

〇取組2：（1）生活者として必要な日本語教室

（1）外国人住民が「生活者に必要な日本語教室」

（2）　取組内容

地域に長く定住しているが、読み書きを含め、日本語が苦手で、地域にとけ込めない人が圧倒的に多いため、「カリキュラム案」に特化した日本語を指導する。学びを生かす体験や地域行事にも参加する。

（3）　対象者

尾張北部地域に住む外国人住民

（4）　参加者の総数　　　　　24人

（出身・国籍別内訳）ペルー7人、ブラジル2人、フィリピン3人、エクアドル1人、
ロシア1人、ベトナム3人、中国　5人、インドネシア2人

（5）　開催時間数（回数）　　51　時間　　（全　17　回）

（6）　取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年11月17日 10:00～15:00	4時間	楽田ふれあいセンター	18人	ペルー7人、ブラジル3人、エクワドル1人、ロシア1人、フィリピン3人、ベトナム3人	日本のお弁当づくりと、オリエンテーション	①お弁当づくり（いなり寿司・唐揚げ、コロッケなど）をしながら、生活に必要な日本語に興味を持たせ、日本語教室への参加意欲を高めた。②今後「自分たちがどんな日本語を習いたいか？どんなことを知りたいか？」をワークショップで考えた。（大まかに出身国別にグルーピング）	指導者：岩脇丈夫、安藤よし子、松本晃 通訳者：森川パトリシア、角田エリザ	齋藤輝幸
2	平成25年11月24日 10:00～12:00	2時間	楽田ふれあいセ	14人	ペルー7人、ブラジル2人、ロシア1人 フィリピン1人ベトナム3人	防災①「自分を守る」	①過去の地震災害のDVDを見て、危機感を持たせ、予想される被害などを話し合い、感想を言いあう。②自分の住まいの近くの避難所を確認③防災カードの用意をし、どんな状況に使えるか？④非常持ち出し袋の中身を一緒に点検した。	指導者：岩脇丈夫、安藤よし子、齋藤輝幸　通訳者：森川パトリシア、角田エリザ	松本晃

3	平成25年12月1日 10:00～12:00	2時間	寺子屋シェイク/	7人	ペルー3人、 エクアドル1人、 ベトナム3人	フロイデまつりに参加準備「民族衣裳を着て、日本人と友達になろう！」	①自分の国の文化や民族衣裳を紹介し、お国自慢をする②友達になるために、自己紹介や、話かける言葉を考え、会話の練習をした。③気に入った衣裳を選び、どこの国の衣裳か、参加者同士で当てあった。	指導者：岩脇丈夫 安藤よし子、松本晃 通訳者：森川パトリシア	齋藤輝幸
4	平成25年12月8日 10:00～12:00	4時間	犬山国際観光センター「フロイデ」	20人（＋日本人23人）	ペルー7人 ブラジル2人 エクアドル1 ロシア1人 中国2人、インドネシア2人、ブラジル2人、ベトナム3人、フィリピン2人、日本人23人	フロイデまつりに参加。「外国人と話そう！」コーナーの開設と、民族衣裳ファッションンショー開催。	「外国人と話そう！」コーナーを担当し、日本人と話し、友達になり、一緒に民族衣裳ファッションショーを繰り広げた。 （「外国人と話そう！」コーナーに参加した日本人に、モデルをしてもらい、自分たちも出演した）	指導者：岩脇丈夫安藤よし子、齋藤輝幸、 通訳：森川パトリシア、角田エリザ	松本晃
5	平成25年12月15日 10:00～12:00	2時間	寺子屋シェイク/	12人	ペルー7人 ベトナム3人、 中国2人	病気になったら	①からだの部位を覚え、適切な診療科にいけるように。②診察室の場面を2人ペアで、ロールプレイした。③診察時で、伝える日本語を学ぶ。④問診票の書き方を覚える。	指導者：岩脇丈夫安藤よし子、松本晃 通訳：森川パトリシア、角田エリザ	齋藤輝幸
6	平成25年12月22日 10:00～13:00	3時間	寺子屋シェイク/	12人	ペルー6人 ロシア1人 ベチナム3人 ブラジル1人 中国1人	毛筆で、年賀状を書こう！	①それぞれの国のお正月をみんなに話す。②日本のお正月のあいさつの言葉を覚えた。③地域の書道家から、書道の手ほどきを受けた。（墨を摺ることから）④年賀状の説明を聞き、会社の上司や、日本人の友達などに、書いた。	指導者：岩脇丈夫安藤よし子、松本晃 書道指導者（地域の方）高木茂子氏 通訳：森川パトリシア、角田エリザ	齋藤輝幸
7	平成26年1月5日 10:00～15:00	4時間	犬山市市民活動支援センター「しみんてい」	11人	ペルー2人 ロシア1人 ブラジル3人 ベトナム3人 中国2人	日本のお正月を体験しよう！	①日本の伝統的なお正月の過ごし方、遊びや習慣、おせち料理などを学び、自国のお正月と違うところを発表した。②お正月遊びを体験した。（木札のかるたとり・ふくわらいなど）③「しみんてい」の好意でお抹茶体験もさせていただいた。④「しみんてい」の他の見学者（日本人）とも話しが弾んだ。	指導者：岩脇丈夫 安藤よし子、齋藤輝幸 通訳者：角田エリザ	松本晃
8	平成26年1月12日 10:00～12:00	2時間	寺子屋シェイク/	9人	ペルー4人、 ロシア1人 ベトナム3人 ブラジル1人	保険について	①保険のしくみ＝まず、学習者がどんな保険に加入しているか？聞き出し、保険の必要性を話しあった。特にむつかしい用語の理解も②特に車の保険については、困った人もいて、みな興味があり、自分達から経験を話した。③子どものある人は、学資保険への興味、傷害保険などの学習もした。 難解な言葉に指導者も、通訳者も、学習者も大変だった。	指導者：岩脇丈夫 安藤よし子、齋藤輝幸 通訳者：森川パトリシア、角田エリザ	松本晃

9	平成26年1月19日 10:00～12:00	2時間	寺子屋シェイク	10人	ペルー3人 ブラジル1人 ロシア1人 ベトナム3人 中国人2人	公共の乗り物に乗って、旅行に行こう！	①日本の交通機関で、今まで何を使ったか？②どんな所へ行ったことがあるか等を2つのGで。③また、グループ毎に行きたい所をきめ、行き方のシュミレーションをした。④それを発表した。	指導者：岩脇丈夫 安藤よし子、松本晃 通訳者：森川パトリシア、角田エリザ	齋藤輝幸
10	平成26年1月26日 10:00～12:00	2時間	寺子屋シェイク	10人	ペルー4人、 ロシア1人 ベトナム3人 ブラジル1人 エクアドル1人	冠婚葬祭について	①慶弔袋を知っているか？また、使い方、書き方、金額など②イラストを使い、葬式・結婚式での服装やタブーを学んだ。③今までに参加した式のG毎に、話をした。	指導者：岩脇丈夫 安藤よし子、松本晃、 通訳者：森川パトリシア、角田エリザ	齋藤輝幸
11	平成26年2月2日 10:00～16:00	5時間	楽田ふれあいセ	24人（＋日本人5人）	ペルー7人 エクアドル1 ロシア1人 中国5人、インドネシア2人、ブラジル3人、ベトナム3人、フィリピン2人（＋日本人5人）	防災２（避難所・炊きだし）	グループワークで、①自分が今までに遭った災害のことを話した。②地震や津波に関してしている言葉を書き出す③地震を想定して、自分がどうするか？書き出す。③グループごとに発表④地域のから、この地域のハザードマップを使っての危険箇所の説明や、説大雨洪水時の対策など＜午前中10:00～12:00＞ ⑤炊きだし体験＝防災用大鍋（はそり）の使い方を学び、ハイゼックスを使い、泥水のなかでも炊けるご飯をつくった。⑤非常持ち出しの缶詰を使ったランタンを作り、火を実際に付けた。新聞紙でスリッパなどを作った⑥避難所としての「楽田ふれあいセンター」の話しと、備蓄してある物を見て、話を聞いた。⑦緊急連絡シートに記入し、各自、持ち帰って、家族にも作ってもらう約束（宿題）をした。＜午後13:00～16:00＞尚、他にも地域の方の参加が5名あった。	指導者：岩脇丈夫 安藤よし子、 松本晃 通訳者：森川パトリシア、角田エリザ、馬永森	齋藤輝幸 地域指導者：吉田正克さん 楽田コミュニティ推進協議会 原正男さん、杉本勉さん
12	平成26年2月9日 10:00～13:00	3時間	寺子屋シェイク	11人	ペルー4人 ブラジル1人 ロシア1人 中国2人 ベトナム3人	日本の教育・子育て	①子育てや教育で不安なことをGで、話して貰う②子どもを育てる際の「ことば（何語で？）」について考えた③日本の教育システムと、お金がどれほど必要か④日本で子どもを生んだり、育てたりする時の制度を学んだ。⑤奨学金制度を伝えた。	指導者：岩脇丈夫 安藤よし子、齋藤輝幸 通訳者：角田エリザ、馬永森	松本晃
13	平成26年2月16日 10:00～12:00	2時間	寺子屋シェイク	9人	ペルー5人 ロシア1人 ベトナム3人	食品や洗剤などの表示の見方	①机の上にある食品ラベルの中から選んでもらい、どんな物か、想像して貰う。②表示されている言葉の意味、表示の読み方を知る③アレルギーの怖さの体験談を聞き、ラベルの大切さを学んだ④台所・トイレ他の洗剤の表示内容を点検した。	指導者：岩脇丈夫 安藤よし子、松本晃 通訳者：森川パトリシア	齋藤輝幸
14	平成26年2月23日 10:00～12:00	2時間	寺子屋シェイク	10人	ペルー5人 ブラジル1人 中国1人 ベトナム3人	日本食のマナー	①日本食の種類と、食に関してのあいさつを挙げる②箸の使い方（実技含）②してはいけない事、悪い箸の使い方③汁物のマナー、音に関するマナー など	指導者：岩脇丈夫 安藤よし子、松本晃 通訳者：角田エリザ	齋藤輝幸

15	平成26年3月2日 10:00～15:00	4時間	楽田ふれあいセ	21人	ペルー7人 ブラジル3人 エクアドル1 ロシア1人 中国3人、ベトナム3人、フィピン3人	防犯・日本の警察	①事件に遭遇した時に、人に知らせる事のできる日本語を中心に学習②自分の住まいの近くの交番や派出所、又は、警察署の所在地確認③日本の警察にお世話になった事や、イメージを話し合った。④犬山警察署、愛知県警国際課から4名の警察官の協力があり、実際の110番通報の実地練習を行った。(中で、10分間、実際に緊急本部に繋げての訓練となった)⑤犯罪に巻き込まれない為の話や交通安全についての話もしてもらった。＜午前＞⑥パトカー出動時の想定や、試乗もさせて貰った。楽田エリアを受け持つお巡りさんが来てくれ、パトロールの事などを話して貰った。⑦学習者が質問カードに記入し、4人の警察官に答えてもらった(13件中8件が日本語での記入) ＜午後＞	指導者:岩脇丈夫 安藤よし子、齋藤輝幸 通訳者:森川パトリシア、角田エリザ 馬永森	松本晃 協力:犬山警察署、(大矢警務課長、課長補佐、犬山南部交番駐在員、)愛知県警国際課(岩佐課長、課長補佐)
16	平成26年3月9日 10:00～15:00	4時間	寺子屋シェイク/	17人	ペルー6人 ブラジル1人 ベトナム3人 中国2人 ロシア1人フィリピン1人	薬の服用と　ふりかえりの会	①くすりを飲む時、どの薬を選ぶか？ パッケージを見て、病状に適した薬が買える か？②薬の飲み方や塗り方の日本語の表現が理解できるようにする。(食後、食前、食間など)③アレルギーなど注意すること④買えない薬は？(などをグループWで)＜午前＞⑤「生活に役立つ日本語サロン」のふり返り⑥これからに向けて、どんな日本語教室ししたいか？＜午後＞	指導者:岩脇丈夫 安藤よし子、齋藤輝幸 通訳者:森川パトリシア、角田エリザ	松本晃
17	平成26年3月16日 10:00～16:00	4時間	郡上市八幡町一	20人	ペルー7人 ブラジル2人 ロシア1人 ベトナム3人 中国5人 フィリピン2人	お別れ旅行「自分の住む町と比べてみよう」	①バスのなかで、勉強した日本語の「しりとり」ゲームをした②古い町を訪れ、自分の住んでいる町との違いと、同じところを見つけて、書き出す。②工芸品を作る体験をする。③今まで、話したことのない学習者や違う国に人と、一緒に行動して、友達になる。	指導者:岩脇丈夫 安藤よし子、松本晃 通訳者:森川パトリシア、角田エリザ	齋藤輝幸

※チラシは最終項に添付

（7）　参加者の募集方法

・尾張北部の外国人支援団体や日本語教室、関係団体、公共機関、県営住宅等でのチラシ掲示。
・キーパーソンや過去に日本語教室に参加した外国人に直接、参加の呼びかけをした。

（8）　特徴的な活動風景（2～3回分）

第1回　お弁当づくり

どんな日本語を学びたいか、発表

第4| フロイデまつりで大活躍

第6回　年賀状を書こう！

第5回　病気になったら

第11回　防災・炊きだし

地域の方から情報を

第13回　表示の見かた

第15回　本部へ通報中

パトカーは大人気

第16回　振り返りワーク

第18回　グループに分かれて散策

（9）　取組の目標の達成状況・成果

参加者の声：「日本で長く暮らすが、知らなかった基本的な情報（日本の冠婚葬祭やき教育資金など）を知ること
ができて良かった」違う国の人と、たくさん友達ができた。実際に「もの」を使って教えてもらったので、よく分かっ
た。（年賀状、のし袋、災害の大鍋、パトカーなど）
指導者の声：グループワークを多く取り入れたので、積極的な会話が多かった。
物の名前や生活に必要な基本的な会話については、身についた人が多かった。
地元コミニティの人や警察などとは、随分、信頼が増したように思う(特に警察官)
全体的には24人中、半数の人が比較的休まず毎週学習し、特にベトナム、ロシア人は熱心で、語彙がとても増
えた同時に、コミュニケーション能力がつき、学習者同志のネットワークが広がった。

（10）　改善点について

イベントプログラムの時には、参加者が増えるが、普段の学習者は、固定したいた感がある。
数の上での広がりが見られなかったので、日時を一考したいが、参加者は、日曜日以外には、出席できないとの
こと。
毎回テーマがかわりより、シリーズ化したり、一つのテーマで、「準備、本番、振り返り」にした方が、日本語習得の
点からも学習者には、いいのではないか？次年に向けて議論や調査したい。

○取組2:(2)子育てを応援する親子日本語教室

（1）体制整備に向けた取組の目標

・ 特に子育てに必要な日本語を身につけ、支援策や情報を掴むことで、孤立しがちな親の子育て支援、育児後の就職準備に役立てる。

（2）　取組内容

・学習の機会がない乳幼児の子育て最中の親が親子で参加でき、託児も利用できる日本語教室。医療機関や子育て支援策を具体的に伝授し、必要な場面想定でも、実践的な教材・プログラムを用意する。

・全7回の連続講座

（3）　対象者

子育て中の外国人（特に幼児期）

（4）　参加者の総数　　7組　18人

（出身・国籍別内訳　　ペルー３組９人　中国１組２人　ブラジル２組３人　フィリピン１組４人　）

（5）　開催時間数（回数）　20時間　　（全　7　回）

（6）　取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年1月18日 10:00～12:00	2時間	楽田ふれあいセンター	7組（15人）	中国（1）、ペルー（3）ブラジル（2）フィリピン(1)	「たのしいゲームやクイズで遊ぼう！」	あいさつ、自己紹介の仕方「日本語で遊ぼう」で、クイズ方式などで、各参加者の日本語の習得の状況をみる。子ども達や託児メンバーも加わり、仲良くなる。	指導者：松本里美 柴田恵津子 通訳者：森川パトリシア	託児者：犬山しみんていの会「てんとうむし」3人
2	平成26年2月2日 10:00～15:00	4時間	楽田ふれあいセ	7組（14人）	中国（1）、ペルー（4）ブラジル（2）	「地震や災害から子どもを守る」	「じしん・つなみ・たいふう、」や「ひなん、にげる、よぶ、しらせる」「きんきゅうじしんそくほう、きゅうえんぶっし」などの言葉。炊きだし訓練、グッズづくり	指導者：松本里美 柴田恵津子 通訳者：渡辺麻衣	託児者：犬山しみんていの会「てんとうむし」3人
3	平成26年2月8日 10:00～12:00	2時間	楽田ふれあいセ	6組（12人）	ペルー（2）ブラジル(2)フィリピン（1）	病気や怪我のとき	近くの医療機関や診療科目、子どもがよく罹る病気の名前や、学校保育園の出席停止や、連絡など	指導者：松本里美 柴田恵津子 地域講師 ：高木光子 （元保育園長）	託児者：犬山しみんていの会「てんとうむし」2人
4	平成26年2月11日 10:00～12:00	2時間	楽田ふれあいセ	5組（11人）	ペルー（3）中国(1)ブラジル(2)フィリピン（1）	お金がいらない遊び場	お金のいらない遊び場や、公園などの情報を伝え合ったり、情報交換する。 話し合いすることで、関係性が生まれ、助け合える関係性になれるように。	指導者：松本里美 柴田恵津子 通訳者：森川パトリシア	託児者：犬山しみんていの会「てんとううむし」2人
5	平成26年2月16日 10:00～15:00	4時間	楽田ふれあいセ	7組（18人）	中国(1)ペルー（3）ブラジル（2）フィリピン(1)	日本の料理やお弁当をつくろう！	保育園やイベントに欠かせない、お弁当づくりをし、日本の食材の名前や子どもが喜ぶ日本料理を覚える。 子どもの栄養について	指導者：松本里美 柴田恵津子 通訳者：角田エリザ	託児者：犬山しみんていの会「てんとうむし」2人 調理補助者：齋藤知子、大澤悦子
6	平成26年3月1日 10:00～15:00	4時間	楽田ふれあいセ	6組（12人）	中国(1)ペルー（3）ブラジル（2）	日本の学校や教育のこと	学校の仕組みや、教育に必要なお金のこと	指導者：松本里美 柴田恵津子 通訳者：渡辺麻衣 講師：齋藤千春	託児者：犬山しみんていの会「てんとうむし」2人
7	平成26年3月8日 10:00～12:00	2時間	楽田ふれあいセ	6組(11人	ペルー（3）ブラジル（2）フィリピン(1)	地域や子育て支援の情報	地域で参加できるお祭りやイベントのお知らせと、子育てのサポートになる情報をつたえる。相談窓口など。	指導者：松本里美 柴田恵津子 通訳者：渡辺麻衣	託児者：犬山しみんていの会「てんとうむし」2人

（7）　参加者の募集方法

・犬山市の外国に繋がる子どもが在園する保育園7園から、保護者に直接ちらしを配布。

・保健センター、子育て支援センター、ファミリーサポートセンターにチラシを設置。

（8）　特徴的な活動風景（2～3回分）

お弁当づくりには、パパたちも。

宿題に、ママたちは真剣

ママも一緒に勉強

子ども達だけのワーク

（9）　取組の目標の達成状況・成果

・参加者が7組と少なく、募集方法を一考しなければならない。同じ国同士の親は、仲良くなれたようだが、日本語のレベルに差がある為、同じ国同士でも、話が進まないケースが目立った。

・託児を設けた事は好評で、全員が、今後も託児付きを望んだ。
託児者に前もって多文化の背景を持つ子ども達のことを話し、「日本語のカルタ」「ひらがなの読み書き」指導を依頼しておいたので、子ども教室は一部「プレスクール」になり、鉛筆の持ち方や文字に興味を持ち、親たちは喜んだ。

・子どもに手が掛かるせいか、情報は必要とするが、日本語習得の為の時間がとれない事実もあるようだ。イベント的な教室に人気があり、気長に学習する環境が必要だと感じた。

・外国人の親子と知り合った事で、託児者がみな「多文化共生」に関心を持ってくれ、今後に向けてボランティア登録をした人もでた。

（10）　改善点について

参加人数が少ないので、まず募集の方法を改善したい。
日本語の会話力がない人が多かったので、ロールプレイをもっと取り入れた形にすべきだった。
情報伝達に重きを置いてしまった感があるので、参加者にとってもっと楽しいプログラムを考えたい。
保護者同士が仲良くなれるようなプログラムが必要だった。

〇取組3：日本語 支援者養成講座～地域密着型の教室運営をめざして～

（1）　体制整備に向けた取組の目標

・外国人住民の状況や日本語ボランティア活動の意義、活動するための知識やスキルを養い、教室運営について考える。

（2）　取組内容

・第1回～10回の連続講座。

第1回目：公開パネルディスカッション「地域の外国人の状況・学習支援活動の状況」
とテーマし、 地域での実践者活のが活動紹介。（ファシリテータ：多文化マネージャー、大橋充人氏）

第2回：地域における日本語学習支援とは？（東海日本語NW：鈴木勝代氏）
第3回：教室活動の作り方「標準的カリキュラム案」とは（東海日本語NW：米勢治子氏）
第4回：教室活動の作り方②「標準的カリキュラム案」を活用して（米勢治子氏）
第5回：日本語教室の課題を考える「指導力評価を活用して」（多文化共生リソースセンター：土井佳彦氏）
第6回：外国人とのコミュニケーション「日本語能力評価を利用して」（名古屋留学生センター：村上京子氏）
第7回：入門者への学習支援活動（とよた日本語学習支援システム：北村祐人氏）
第8回：読み書き学習について（名古屋大学留学生センター：衣川隆生氏）
第9回：教室活動のつくり方③「実践してみよう！」（米勢治子氏）
第10回：振り返りと今後に向けて（米勢治子氏）

（3）　対象者

（4）　参加者の総数＿＿＿＿＿40人
（出身・国籍別内訳　　　　　　　　　日本人３８人　ペルー人１人　ブラジル人１人

（5）　開催時間数（回数）＿＿30時間　　（全10　回）

（6）　取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年9月7日 14:00～17:00	3時間	犬山市南部公民館	40人	日本人38人ペルー人1人ブラジル人1人	地域の外国人の状況・学習支援の状況～地域の外国人の状況を知ろう～	尾張北部の5つの外国人に関わる団体が、日本語教室やそれぞれの活動や地域事情・活動の内容を紹介。その後、犬山市多文化推進員より、地域の外国人事情を説明、問題と思われる事項を提示。	コーディネータ：大橋充人（多文化マネージャー） パネラー：早瀬裕子 後藤好美 松本里美 西部昭夫 朝倉かおり 大島ユミ	
2	平成25年9月14日 14:00～17:00	3時間	犬山市南部公民館	17人	日本人14人	地域に於ける日本語学習支援とは？	愛知県の日本語教室の実態と、この地域の日本語教室の実態の違いをふまえた。その上で、支援者として、どんな教室運営を望むか？どんな指導が望まれるか？をグループワークした。	東海日本語ネットワーク代表 鈴木勝代　氏	
3	平成25年9月28日 14:00～17:00	3時間	楽田ふれあいセ	17人	日本人17人	教室活動のつくり方①「標準的カリキュラム案」とは？	「生活者としての外国人とは？」「地域に密着した教室とは？」をグループワーク。その上で文化庁の標準的カリキュラム案作成の背景や、その活用方法を学んだ。	東海日本語ネットワーク副代表 米勢治子　氏	
4	平成25年10月5日 14:00～17:00	3時間	楽田ふれあいセ	16人	日本人16人	教室活動のつくり方②「標準的カリキュラム案」を活用して	具体的なプログラム作成の4つのポイントを踏まえた活動案づくりをグループワークで。グループ毎の案を発表。	東海日本語ネットワーク副代表 米勢治子　氏	
5	平成25年10月12日 14:00～17:00	3時間	楽田ふれあいセ	16人	日本人14人	日本語教室の課題を考える～「指導力評価」を活用して～	「地域の日本語教室における評価とは？」を誰に対して？や、報酬・罰則は？等、現状との差を知り、差を埋める方法を考えた。	多文化共生リソースセンター東海 土井佳彦　氏	
6	平成25年10月19日 14:00～17:00	3時間	楽田ふれあいセ	16人	日本人16人	外国人とのコミュニケーション～「日本語能力評価」を活用して～	何のために評価は必要か、誰にとっての必要か？、どんな方法があるか、を考えた後、「とよた日本語能力判定」に基づく、方法を学んだ。	名古屋大学留学生センター教授 村上京子　氏	
7	平成25年10月26日 14:00～17:00	3時間	楽田ふれあいセ	15人	日本人15人	入門者への学習支援活動	入門者には、どんな人や実体があり、どんなニーズがあるか？等を想定しながら、入門者に対するコミュニケーションのあり方や日本語学習の促進の仕方を学んだ。 とよた日本語学習システムを学んだ。	とよた日本語学習支援システム 北村祐人　氏	
8	平成25年11月2日 14:00～17:00	3時間	楽田ふれあいセ	15人	日本人16	読み書き学習について	参加者の相互理解を重視する「とよた学習システム」における「会話クラス」と「読み書きクラス」の違い。特に「読み書きクラス」における文字を使っての対話」と授業の流れを学んだ。	名古屋大学留学生センター教授 衣川隆生　氏	
9	平成25年11月9日 14:00～17:00	3時間	楽田ふれあいセ	14人	日本人14	教室活動のつくりかた③実践してみよう！	カリキュラム案を利用した実践活動の報告と反省	東海日本語ネットワーク副代表 米勢治子　氏	
10	平成25年11月16日 14:00～17:00	3時間	楽田ふれあいセ	16人	日本16人	振り返りと今後に向けて	この研修のキーワードを振り返って、どこにどういう形で、役立てるか？を考え、地域日本語教室をどう運営するか、その為に、どんな連携をしていくか話し合った	東海日本語ネットワーク副代表 米勢治子　氏	

※チラシは最終項に添付

（7）　参加者の募集方法

尾張北部地域の各日本語教室、外国人支援団体にちらしを配布、各公共機関、国際交流協会等で告知してもらった。

（8）　特徴的な活動風景（2～3回分）

第1回目シンポジウム　　第2回講座　　第8回読み書き学習　　第9回　実践してみよう！

（9）　取組の目標の達成状況・成果

参加者からの声として
・自分たちの地域で学習できた事は便利だった。
・カリキュラム案や教材例集を使うスキルを身についた。
・外国人を「生活者」として見る目が加わった。

・尾張北部地域の日本語ボランティアが17名カリキュラム案を知り、理解できたことは今後の教室運営に期待できる。
・実際に「とよた日本語学習支援システム」を学習したり、地域日本語教室コーディネーターの講座に通うなど、その後の進展が見られた。
・既存のボランティアが共に学習することで、この地域の教室が（生活者としての外国人のための日本語教室）にシフトしていく事が期待できる。
・参加人数はほぼ予想通り（20人限定）であったが、新規のボランティア希望の参加者がなかったのが残念。

（10）　改善点について

・養成講座の企画立案が遅れた事で、充分な広報活動の期間が短かったこと。
・ネットワーク会議などでの意義の共有をもっと図るべきだったのでは。
・内容については、参加者からもう少し実践的な活動を多く取り入れたいとの声が多かった。

6.　事業に対する評価について

（1）　事業の目的

外国人散在地区と位置づけされている愛知県尾張北部の日本語教育に携わる団体が日常的なネットワークを結び、指導者養成講座や、カリキュラムに基づく日本語教室等を開催し、日本語教育の拡充と真の多文化共生の地域づくりを進める。

（2）　事業目的の達成状況

散在地区の日本語教室がネットワークを結ぶことで、「単独ではできないプログラムを実現できた」という声が、ネットワーク会議や運営委員会で出席者から上がった。特に養成講座では、標準的プログラム案を参加者が共有し、今後の日本語教室の運営に活かせるのではないか。また、参加者同士のコミュニケーションが進み、地域協力者や指導者も含めて多文化共生社会づくりの新たな一歩が進められた実感が得られた。

（3）　地域における事業の効果，成果

尾張北部地域は散在地区として認識されているため、多文化共生への行政の認識も薄く、従来の日本語教室も多文化共生にシフトしづらい状態にあった。本事業のネットワーク会議や養成講座による協働などで、個々の日本語教室の指導者がカリキュラム案を中心に、地域密着型を目指すようになり、徐々にではあるが、変化が見られた。いくつかの教室に通う外国人同士も市・町を越えたネットワークができつつある。楽しく学べると共に、学習意欲も高まって、次年度に向けての開催要望もでている。

（4）　改善点，今後の課題について

ｉ　現状
・各市・町の行政への連絡不足から、双方の情報共有が少ない。
・尾張北部でも、日本語教室参加の少ないエリアがある。
・日本語教室への外国人住民の参加が少ない。

ⅱ　今後の課題

行政にも密なるネットワークを結び、情報の共有をすることで、外国人への広報・日本人住民への啓蒙をより一層進め、外国人の地域参画を促す。また、ネットワーク団体を増やす。

ⅲ　今後の活動予定

・ネットワーク会議を次年度も継続し、参加団体を増やす新たな取り組みをする。
・各市・町の外国人のニーズやライフステージに沿ったテーマ毎の日本語教室をシリーズ化して開催する

(5）その他参考資料